

年表を付しますが、時期を特定できないなど、良く分からない点多々あり、間違いがある可能性があります。予めご了承ください。

西暦	年号	満年齢	田中平八の人生	当時の主な情勢
1834	天保5年	0	藤島卯兵衛の三男として赤穂町に誕生、幼名「釜吉」	
1842	天保13年			清国、イギリスに敗れ、南京条約を結ぶ。
1846	弘化3年	12	飯田城下の魚屋に丁稚奉公に出される。	
1853	嘉永6年	19	飯田城下の染物屋の娘、田中はると結婚し、田中家の婿養子となり、田中平八となる。	ペリー来航
1856	安政3年	22		アメリカのハリス下田に来航
1858	安政5年	24	この頃より信州と横浜を往復し、なにがしかの商売を行う。	米英露仏と修好通商条約結ぶ。
1859	安政6年	25	飯田を出て、単身横浜に赴く。各地を奔走し生糸、茶を横浜に運んで利益を得る。	横浜、長崎を開港
1860	万延元年	26	商売でしばしば中山道を往来していて、志士、清川八郎と出会い、意気投合。盟約を結ぶ。	井伊大老桜田門外にて殺される。
1863	文久3年	29	製茶を船積みして四日市から横浜に向かう途中遭難転覆、全財産を失う。(慶応4年という説もある)	薩英戦争(前年に生麦事件)
1864	元治元年	30	筑波山で天狗党に間違えられ官吏に拘束され旧水戸藩氏共々京都に逃れ、佐久間象山と出会い、池田屋騒動に巻き込まれるという逸話があるが…	英米仏蘭長州藩を砲撃
			横浜に向かう。神奈川で車夫など。	
			横浜の売込商人、大和屋三郎兵衛に寄食して生糸売込、洋銀売買を始める。	
1865	慶応元年	31	田中和助・八百の養女だいと結婚。洋銀売買で巨利を得、南仲通り2丁目に、「糸屋平八商店」を開店。通称「糸屋の平八」「天下の糸平」と呼ばれた(自称か)。その後火災にあい、商売も失敗を繰り返す。	各地に世直し一揆起る。
1866	慶応2年	32	生糸売込商のほか、両替商で巨利を得る。長男、洋之助誕生。	11月、慶応の大火(豚屋火事)
1867	慶応3年	33	横浜の一流商人として、故郷に帰り悉く借金を返す。	大政奉還
1868	明治元年	34	洋銀相場会所設立し所長となる。	明治維新
			外国商人の脱税看破し税収を4倍にする。	
1869	明治2年	35	横浜為替会社創設し筆頭役員となる。	東京遷都、版籍奉還
			高崎藩の商法取引方となり藩財政を改革する。	
1870	明治3年	36	水道会社設立	
1871	明治4年	37	富貴楼開店。井上馨の依頼で洋銀(メキシコドル)の買い上げにあたる。	廃藩置県・郵便制度開始・新貨条例・日清修好条規調印
			高島学校の生徒を救済する。	
1872	明治5年	38	東京、横浜、鉄道開通。開業式で天皇に祝辞を献上、勅語を賜る。	11月国立銀行条例を公布、各地の為替会社倒産
			9月横浜金穀相場会所設立、洋銀の売買管理にあたる。	
			横浜為替会社を廃し、第二国立銀行に移管、大株主となる。	
1873	明治6年	39	日本橋蛸殻町に中外商社肝煎となる。	
1874	明治7年	40	横浜公園で蚕種紙44万5千枚焼き捨て事件	秩禄公債発行
1876	明治9年	42	日本橋に田中組(後の田中銀行)を創立	
			相場で大穴をあけ、お倉の力で大隈・井上に助けられたという。	
1877	明治10年	43	神奈川県第一大区議員に挙げられる。	金禄公債発行、西南戦争
1878	明治11年	44	兜町東京株式取引所の大株主となり10月頭取になる。	
1879	明治12年	45	大蔵省為替方を命ぜられる。	
1880	明治13年	46	横浜正金銀行が設立され、その大株主となる。	
1881	明治14年	47	肺を患い療養する。	
1883	明治16年	49	田中組を廃止し田中銀行を創立。	
			熱海に簡易水道、電信線を敷く。	
1884	明治17年	50	6月8日横浜で没す。良泉寺に葬られる。	

